

## 平成30年度 第2回桑名市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成31年2月6日(水)  
開会 15時30分 閉会 16時45分

2. 開催場所 桑名市役所3階第2会議室

3. 出席構成員

桑名市長 伊藤 徳宇

桑名市教育委員会

教育長 近藤 久郎

委員 松岡 守

委員 稲垣 陽子

委員 安藤 智里

欠席委員

委員 佐藤 強

委員 松香 洋子

4. 構成員以外の出席者

(総務部)

総務部長 平野 勝弘

総務課長 日佐 龍雄

総務係長 水谷 圭司

(教育委員会事務局)

教育部長 南川 恒司

教育監兼学校支援課長 高木 達成

学校支援課主幹 尾関 一夫

教育総務課長 山下 範昭

教育委員会政策監 山口 雄二

教育総務課管理係長 吉田 歩

5. 議 題 (1) 桑名市教育大綱(案)について  
(2) その他

**【総務部長】**

皆さん、こんにちは。お集まりいただきましてありがとうございます。

会議に先立ちましてですけれども、傍聴の関係でお諮りをしたいと思います。今回、非公開とすべき案件はございませんので、傍聴者の方の入室許可をしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

**【市長】**

では、許可しましょう。

**【総務部長】**

お願いいたします。(傍聴者入室)

では、ただいまから、平成30年度第2回桑名市総合教育会議を開催いたします。

本日、佐藤委員さん、松香委員さんは、所用のため欠席ということですのでよろしくをお願いいたします。

本日の会議の協議内容ですが、桑名市教育大綱(案)について協議をいただきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思います。ここからは、進行を市長のほうでよろしくお願ひいたします。

**【市長】**

それでは、よろしくお願ひいたします。

では、早速ですけれども、事項書の1、桑名市教育大綱(案)についてを議題といたします。

現行の教育大綱が、総合計画の前期基本計画の終了年度と同じ2019年度までの期間となっております。そのため、これから2020年度からの教育大綱の策定を進めてまいりたいと思ひます。それでは、教育大綱の策定作業にあたりまして、まず、本市を取り巻く社会情勢の変化や子どもたちの学びのあり方についての意見交換をしたいと思ひます。

まずは、事務局から説明をお願いいたします。

**【教育監兼学校支援課長】**

教育監兼学校支援課長の高木でございます。

それでは、資料をもとに、今、市長からご紹介いただいた内容につきましてご説明をさせていただきます。急激に変化する社会の変化・人の変化という題名がついている資料をご覧ください。お願いいたします。

まず、社会の変化というところで、よく言われますSocietyという言葉がございます。Society3.0、これが工業化社会ということで、産業革命から始まる大量生産の工場の生産、そういったものが基幹となる社会。それから、Society4.0、その中で、今現在のような非常に情報化が進んで、情報の取得が、インターネット等を通じてできるようになった時代。それから、次の時代と言われているSociety5.0、超スマート社会ということで、今度は、情報が、これまでは、インターネットを通じて自分たちがとっていたのが、必要に応じて必要な情報が提供されるような時代になってくるというようなことで、ちょっとイメージしにくい部分もございますけれども、そういうふうな時代に変化しつつあるというふう言われております。

この四角のところにありますけれども、AI技術の発達によって多くのものやロボットがインターネットと接続して、さまざまな分野で活躍し、作業の自動化等といった革新的な変化も起こされている。こういったものも超スマート社会の一部ということで、既に始まっている部分もございます。

ここでは、その一例ということで書いてございますけれども、例えば、無人のドローンがいろんな届け物を、山を越えたりして人が不便なところでも運んでくれるようになるとか、それから、遠隔地で医師の診断が受けられるとか、それから、冷蔵庫も、そろそろこれが空ですよということで、自動で注文してくれたり、そういう指示をしてくれるというもの。それから、バスなども、運転手さんがいない無人走行でお客さんを乗せて、必要なところ、目的地に運んでくれる。そんなようなことを代表に、さ

さまざまな社会の変化が起こってくるということです。

当然、例えば無人走行バスということは、これが当たり前になれば、バスの運転手という仕事が無くなるというようなことで、さまざまな定型的業務や数値的に表現可能な業務と称しておりますけれども、AI技術によって代替が可能になってくるということで。産業も大きく、クラウドを介した物や情報のやりとり。典型的な、例えばアマゾンなどで注文すると、次の日には着く、場合によってはその日のうちに着くというようなことも起こったり、さまざまな行動が変化してくる。それから、働き方の変化ということで、そういった形の変化になってくると、必ずしも会社に働きに行き、そこで仕事をするというようなことばかりとは限らないような柔軟な働き方がありますとか、何よりも職業そのものが、さまざまなこれまでになかった職業が出てきたり、逆に、これまでの職業がなくなってくるというような事態も生じてくるということでございます。

そういった社会の変化の中で、人がその中でいろんな考え方も少しずつ変わりつつあるということで、よく言われることですが、ミレニアム世代ということで、2000年以降に成人を迎えた世代ということで、こうやって考えていくと、子どもだけではなくて、保護者さんもそれに含まれてくるのかなということで、一例を挙げさせていただくと、ここにありますように、IoT家電を利用したようなライフスタイルでありますとか、自己実現ということをすごく重視するということでもありますとか、1人の時間を楽しみたいとか、価値観も、他人から押しつけられるのは嫌だとか、仲間という考え方も、仲間はすごく大事にするわけですが、直接ふだん一緒に行動を伴うだけでなく、SNSなどでつながっている人たちもまた自分の仲間として捉えるというような意識の変化が見られます。

次のページをご覧ください。

では、桑名の子どもたちはどうかということ、これは桑名市の学校現場の教員たちの声ということで、主に、比較的課題というところで捉えた部分で載せさせていただいております。コミュニケーション能力の弱さでありますとか、周囲を気にしてなかなか自分の思いを表に出せないとか、テストの点を気にするとか、読む力、書く力に弱さが見られるとか、幾つの特徴を挙げさせていただいております。

その中で、先ほどもミレニアム世代とありましたが、生まれついてコンピューターが身近にあって、それから携帯電話等もあるような、そんな時代に生まれて、物心がついたときから生きているという、そういった子どもたちの特徴として、スマホから情報を入手するとか、新聞や本を読まないとか、自分の関心のある情報しかとらないとか、「いいね」をすごく気にするとか、Face to Faceが苦手ですとか、そういったさまざまな特徴が見られると。それを見ていくと、かなり共通点というか、何か関連性が見られるというところもここから見えてまいります。

ただ、この下に、今の教育のあり方が課題ではないかということで、実は、課題として言っていることが、これが本当に課題だろうか。このような状況にしている部分の学校の教育の課題というのがあるのかもしれない。本当にコミュニケーション能力に弱さが見られるかといえば、コミュニケーションはそれこそLINEなどを使ってどんどんやっている。言ったら、コミュニケーションのあり方が違ってきているだけではないかとも言われるわけでございます。そんな中で、何を課題とするのかということは、物の見方を変えると長所にもなり得るということで、このあたりも、今後考えていかなければならないところが少し垣間見られるのではないかとということもございます。

それから、その次、3番でございます。変化に対応したこれから求められる資質・能力というところで、特に、今後、おそらく仕事として重要になってくるのは、AIが苦手とする意味を理解して柔軟に判断できる力や調整する力を備えていく、それが人間の強みであるし、AIは苦手であるし、おそらく、これから大きな仕事では、こういう性質を備えた仕事が出てくるのではないかなというところでございます。

そのあたりにつきましては、国のほうもさまざまな対応ということで考えております。文部科学省がいろいろ出している中では、まず、新学習指導要領の中で、学習評価の3観点ということで、これから子どもたちに求められる力として、文章や情報を正確に読み解き対話する力、これを知識、技能と

いうふうにもまず見ております。それから、科学的、論理的に思考し、活用する力として、思考力、判断力、表現力等という言い方でまとめてあります。それから、価値を見つけ出す感性、好奇心、探求力といったものにつきましては、主体的に学習に取り組む態度という形で表現をしております。このような形で、3観点として、それぞれの教科の指導においても評価をしていくというようなことで示されております。

それに関連しまして、新学習指導要領の方向性ということで、特に、今、文科省が強く打ち出しているのは、何を教えるのかという中身以上に、どのように学ぶのかとか、何ができるようになるかという視点を重視してくるようになっております。これにつきましては、別添の資料1もあわせてご覧いただくと分かりやすくなるかと思えます。

ここでは、学習指導要領改訂の方向性として、今お話を始めております中身が図式化されているわけでございますけれども、何を学ぶのかということと、どのように学ぶのか、何ができるようになるかという3つの観点を結びつけております。何を学ぶのかというのは、基本的には、これまでの教科もありますけれども、それに加えて、小学校の外国語教育の教科化でありますとか、それから、高校では、新科目の「公共」の新設などといったことで、新しい内容について、どちらかというところ、これまでの学習内容を削減するのではなくて、つけ加えるという方向で示されております。

それから、どのように学ぶのかというのが、比較的、これまでは教師が教科の内容を丁寧に説明して、幾つかの問題を出して、分かりましたかという、どちらかというところ、教え込んでいくというのが強い要素を持った指導をしていたわけですが、それが今度は、主体的、対話的で深い学びということで、「子どもが学ぶ」と、子ども自身がさまざまな教科等についての内容を学び取っていくという意識に変えていくという指示が出されております。

最終的に大事なものは、何ができるようになるかということで、一つは、学びを人生や社会に生かそうとするような、そういう学びに向かう力、人間性等と、何のために学ぶのかというふうにしっかり認識させる。それから、生きて働く知識・技能。あくまで自分が生きていく上で、それが使えなくてはいけない。それから、未知の状況に対応できる思考力、判断力、表現力等の育成ということで、このあたりにつきましても、文部科学省が新学習指導要領、大体10年間これは有効で、また10年間たったら新しい新学習指導要領に変わっていくというのが一般的ですが、その10年後、この学習指導要領が次の学習指導要領に変わるころにはどんな世の中になっているのかが明確には見えないと。だからこそ、どういう状況になっても対応できるような力が、今後子どもたちにつけていかなければならない力ですよということを明示しております。

その中で、大学入試等も、今後、知識量だけでなく、思考力、判断力、表現力を問うような問いをしてくる可能性もあるということで、大学入試が変われば、また高校、中学、小学校と、今後の学び、それから学習内容も変わってくる可能性がございます。

それから、国際的な部分で、次のページをおめくりいただけますでしょうか。

OECD、経済開発協力機構のほうで示しております知識基盤社会の時代を担う子どもたちに必要な「キー・コンピテンシー」、主要能力というふうに訳されますけれども、それを3点挙げております。

一つとしては、社会的、文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力ということで、これは、言語や情報、それから新しいスマートフォンを含めたさまざまな機器、それから組織等、ありとあらゆるそういったツール、それをうまく使っていく。それも相互作用的にというところから、関連づけて有機的に使っていくという能力。

それから、もう一点は、多様な集団における人間関係形成能力ということで、さまざまな理想とか、価値観を持った方々と協調して、一言で言えば、落としどころを見つけていけるような、そしてそこで、理性的に自分の主張を的確に相手に伝えて、相手の主張も的確に捉えて、その中で調整をしていける、そのような力。

それから自立的に行動する能力ということで、周りがどんなふうに変化しようと、その中で自分をどうするのかと。そういった考えのもとで行動に移せる力というような3つの力というものを、特にこれ

から大切な力として述べられています。

それから、それらの状況、社会の変化、人の変化、その中で求められる力というところに基づいて、では、これからの桑名市の教育についてどうしようかというときに、やはりこれは、一番分かりやすいテーマとしては、主体的・対話的で深い学び、これが子どもたちを育てるキーになるのかなということでございます。具体的には、教科の授業といたしましては、一斉一律の授業、知識注入型の授業、俗に言う、教えてもらうから、子どもが主体的に学ぶ授業。それは、ほかの子どもたちとも関連して、いろんな意見を聞いたりしながら、自分の意見の違いと照らし合わせたりしながら、より広く、深く学んでいくと、そういう共同学習型の授業の中で自分が学ぶのですよと、そういう意識を持った学びに変えていかなくてはいけないということ。

それから、特別活動や総合的な学習の時間につきましては、さまざまな自分の生活の中で起こってくる課題というのをどうしていくかと。これもいろんな子どもたちにとってそれぞれ考え方があってすから、その中で自分たちの生活をより良くしていこうというような活動や、それから、その活動の中から視点を、学校だけではなくて、地域や社会に広げて、自分たちにできることはないかと考えて実践していくというような、そういった活動なども積極的に行っていく必要があるだろうなど。

そういった学びをしていこうと思うと、やはりこれは社会にも開いていかなくてはいけないということで、社会に開かれた教育課程ということで、地域に出ていくというのは、地域からも協力が必要ですし、それから自分たちも地域に目を向けていくこととなります。それから、当然、時間軸で考えると、学校を卒業してからもずっと続くという意味でも、開かれた教育課程、学校で閉じるのではないですよという意味でも、社会に開かれた教育課程という表現がなされているかと思えます。

こういった指導を積み重ねていくことで、自ら考え、行動するような良さを味わって、学校を卒業した後も、常に学びが続けられる、そしてより良い社会をつくり、自分も幸せになっていけるような子どもたちに育ってほしいと思うところでございます。

それから、その他、お手元の資料でございますけれども、特別支援教育に関する現状でありますとか、いじめの認知件数、不登校等々、関連資料もあわせてつけさせていただきましたので、これらをもとにご討議をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

以上でございます。

**【市長】**

ありがとうございました。

非常に急激に社会が変化して、人も変わり、教育のあり方も変わっていくという中での教育大綱をつくっていくということですが、まずは、ここまでの説明から、皆さんのご意見を賜りたいというふうに思います。

どのように回っていきましようか。またこちらからにしましようか。

**【教育長】**

では、よろしいでしょうか。

**【市長】**

お願いします。

**【教育長】**

今の事務局からの説明を受けてということですが、最近、本当に社会が変わってきたというのを幾つか実感を受けています。例えば、名古屋市が、トヨタとソフトバンクでしたか、一緒に自動運転の実証実験をやると言っていたら、選挙を終えられてすぐ、愛知県もそういうような話を一宮でやるというお話でしたし、山手線が自動運転のドライバーレスをやるというふうですし、近くでは、四日市市もJRの駅と近鉄の駅という話がありました。それから、桑名市も、保育所の入所選定にAIを何とかというふうですし、教育委員会としても、AIを活用できないかなと今模索しているような状態でございますし、本当に我々の周りが変わっていくということを実感しております、そうすると、子どもたちがどんな時代を生きていくのかと。

今の小学1年生は107歳になるというような話も聞いていますので……。

【市長】

寿命ですね。

【教育長】

そういう状況になりますと、おそらく終身雇用制度はなくなるだろうというふうに思いますし、そうになると、学び直しをして、次の職業ということも大いに考えなくていけないことになりますし、今提案がありましたように、AIで代替できるようなルーティンの仕事が非常に厳しくなっているだろうと。そうすると、今、いろいろとお話がありました、子どもたちが人間らしさというのですかね、その中でやっていくような仕事についていく、新しい仕事もたくさんできてくるとは思いますけれども。

ただ、私が心配するのは、一握りの子どもたちがそういう先進的な職業とかについていくことは分かりますけれども、大半の子どもたちは、では、どうなるのかなということ少し心配なところがございます。そうすると、一番我々がやっていかなければいけないのは、ここにありましたように、読解力かなという一つ考え方も持っていて、そうすると、中3の教科書を読み込めるような力がないと、AIに代替されてしまうのでないかなと今ちょっと。その中で、桑名の子どもたちはどういうふうについていけばいいのかという思いを持っています。

ただ、教育委員の皆さんと一緒に実際の授業を見に行くわけです。教育委員会を午前中やって、午後見に行くとか、あるいは、午前中視察をして、午後に教育委員会をやるかということをやっているわけですけれども、私の感覚で、ほかの委員さんに後で聞いていただければと思いますが、今の教育監が提案していただいた一斉授業、知識注入型という授業が、8割そうではないかなという気がしますので、そうすると、桑名市としては、授業改善というか、この考え方を先生たちにしっかりと理解していただいて、全市的に広めていくことが非常に大事ではないかと。その起爆剤が小中一貫であり、ICT教育なのかなということ少し思っていますので、問題提起のようで申し訳ないですけれども、今の授業等も見ていただいて、今後どういうふうに桑名の教育を積み上げていけるのかなというのを少し議論していただくとありがたいなと思います。

【市長】

ありがとうございます。

時代が大きく変わっているなという認識を持っていただいている中で、理想として、スーパーマンみたいな子どもがいっぱいできればいいんでしょうけれども、本当に全体ができるのかということと、そこに対して学校現場自体が本当に変わっていけるのか。特に、知識注入型の授業をずっと進めてきた先生方がいい先生だというふうには、そういう形で進めてきた先生たちが急に共同学習型授業に変えていけるのかというのは、非常に大きな課題なのかなということでしょうかね。そういう意味で、投げかけという感じなのかな。その部分を変えていくための一つのツールとして小中一貫などがあるのではないかなというようなことでありました。

では、続いて、稲垣委員、お願いします。

【稲垣委員】

まず、この時代の変化で、子どもたちに期待することがいっぱい多くて、子どもたちからそんなに俺たちに期待するなよと、そこまでするなら大人もしっかりしろよと、正直そういう気分になりますよね。

もちろん子どもも、これから本当にどういう時代が来るか分からないですけども、私たち大人も本当にやらなければいけないと思っていて、例えば、これだけ全ての力を満遍なくやらせるというやり方もあると思います。OECDの全ての力を備えつけようなんていうのもありだと思いますが、今、そういうものではなく、桑名市はどの力に注力するのかとか、桑名市はどういう子を育てるのかとか、そういう理念のもとで人が育つという、そういう時代なのかと。

そこで、今、いろんな市町でも、そうやってうまくいっているところが出てきていると思うんですね。これは参考にはならないですけど、麴町は、工藤勇一先生がすごく有名で、これをまねしたいわけではなく、私はこの裏に書いてある言葉が、ちょっと読みますけど、何も考えずに当たり前ばかりをや

っている学校教育が、自分の頭で考えずに何でも人のせいにする大人をつくるって書いてあるんですよ。これは結構痛いなと思って。だから、やはり大人が当たり前だろうとか、今までこうだったから、いろいろ世の中が変わるから、ちょっとプラスアルファで変えるから、これで頑張ってるね、子どもたちという、そんな小手先は通じないのではないかと。

それよりも、本当にゼロから、もう一回教育って何なのというのを、ガラガラポンで本当にやって、では、桑名市は何をするのか、焦点を絞らない限り、当たり前だよって、子どものほうが冷めていますよね。俺たちのせいにするなよという声が10年後に聞こえてきそうな気がするので、本当に真剣にならなければいけないなというすごい危機感をちょっと感じています。

#### 【市長】

僕もそうですね。子どもにかなり期待しているというか、逆に言うと、教育は投げているといいますかね、全部やれよみたいな感じもちょっと感じなくもないですけども。

#### 【稲垣委員】

あと、もう一ついいですか。この間、文科省に行かせていただいて、全国の教育委員が集まる研究協議会に行かせていただいて、いろんな教育委員の方がいて、やはり皆さん、お金の問題とか。東京都の区の教育委員の方もいて、そういうところはお金があるわけですよね、当然ですけども。そうすると、教育にお金をかければいいのかというのではないと個人的には思っています。どこにお金をかけていくのかというのを本当に考えないと、ふんだんはないので、お金は、本当にそれは考える時期に来ているなと思いますが、そうはいっても、お金があるところの教育と格差が生まれるのは本当に避けたいなって。

ある区の方は、「うちは冷房が入っていないですよ、体育館にね。」という話が出て、体育館に冷房という話ですかみたいな、そういうレベル感とか、本当にそういう格差はなくしたいなとか。かといって、お金がどうの、全部入れればいいのかというものでもないですけども、ただ、そういうのも全国レベルで見していきたいなと思います。

#### 【市長】

ICTの部分は、かなり地域間格差が、おそらく出始めているので、また、家庭間格差というのかな、そういうのも大分出てきている感じもありますので、国、文科省ともいろんなこういう議論をして、議論というか、お伝えしていくべきことなのかなというふうに思いますね。

社会がすごく変わっていて、大人も変わらなきゃいけないというのは、この20年というかな、すごく変わっているので、本当に大人も気をつけていかないとというか、大人も変わらなくてはいけないということなのかなと思いますよね。

僕は、大学生のときに、情報化社会論というゼミで、1998年に大学のゼミで、「楽天は成功するのか。」みたいな議論をしていたわけです、今考えたら。でも、当時はものすごく真剣に、あれはうまくいかないという人が大多数だったという、早稲田政経学部の劣化を感じますけど。そんな議論をしていたり、ユビキタス社会って来るのかなとか、みんなが〇〇〇でつながるみたいなのが、今や、当たり前のようにスマートフォンがあって、みんなで物もつながっていくみたいなのに大人がどこまで対応していけるのかというのは、今の50代の教員がそこに対応できるのかとかね。

うちも、家にこの間AIスピーカーを入れまして、Amazon Echoで。子どもたちは普通に使うんですよ。Alexa、何とかしてとか。僕とか妻とかは、いらいらするわけです、使いこなせないみたいな感じもあって。大人もいろんな意味で変わるのが当たり前だよと、そういうような意識を持つのが大事なのかなというのを感じました。

ありがとうございます。

では、安藤委員、お願いいたします。

#### 【安藤委員】

変わるということが、必要だと思いますが、現場にいと、わりと指導要領が変わるたびに、今回はこれが大事、ごめんなさい、間違っていた、次の終点でもとに戻しますとかね。えーっという感じがやはりあって、基本的に大事なもので変わらないのではないかって。どんなにAIが活躍しようが、社

会が変わっていきこうが、自分がしっかり、一人一人がしっかりしていれば、それに柔軟に対応していけると思います。

今また、点数がどうのこうのって、すごい点数主義になっていて、今また、非認知能力が、点数ではかれないものが大事でと。そんなこと、当たり前であって、前から分かっていたのにとということで、自分としては、心の基盤をつくるとか、土台をつくるということがとても大事だというふうに思っていたわけですね。

だから、ああだこうだということで、あたふたしないでほしいという思いがあって、それこそ桑名としてはどういう子を育てたいんだと。どんなに世の中が変わっても、自分は頑張っやろうとか、くじけずとか、何か障害があってもそれを乗り越えていける、もしくは、違うこともやってみようって選択ができるとか、粘り強く頑張れるとかって、そういう資質があれば大丈夫ではないかなというふうに思います。だから、どういう子を育てていくかという、そういう理念をしっかり持っていくということが大事だと常々思っています。そういうところ変わってどうするんだというふうに私はすごく腹が立っていたので。

とともに、もう一つ、そういう子どもたちをつくっていく、また後で話が出ると思いますが、夢を持つとか、夢に向かって努力するとかというためには、そういう子どもたちにしていく教育環境であり、家庭の環境であり、基盤がとても大事だと思うので、現場にいと、目の前で問題を抱えている子に気持ちが悪くどうしよう、どうしようとなるわけで、学び方がどうのこうのとか言っているよりも、この子が明日きちんと学校へ来られるかとか、あそこのうちはきちんと成り立っていくのかみたいなことをすごく苦慮するところがあるって、家庭の教育力とか、そういうものがきちっとしていなければ、夢も持てないだろうし、夢に向かって努力もできないだろうということを感じるわけで、最近も、小4の子が亡くなったという事件もありましたけど、それ以前のそういうところをしっかりと市としても支援していくとか、そういうのがすごく大事ではないかなというふうに、教育大綱をずっと読ませてもらっていて思いました。

#### 【市長】

多分、いろんなこういう子がこういう能力が要るよねと言っているのって、今、世にいう優秀な子どもたちはこういうのを持っているんですね、おそらく。きちんと、お子さん方の、安藤委員が今おっしゃるような心の土台とかがきちんとできていて、かつ勉強していくみたいなこともできているんですけども、それをこういう言葉で書いただけではないかというようなことですかね。

あとは、夢を持ち、夢の実現のために頑張る、努力する子を育てると、おおもとをつくっているんですけども、その夢すら持てない環境の子どもたちもいて、その子の家庭環境を支援するみたいなことに、ものすごく力を入れていくとか、そういうことも必要だということなのかなというふうに感じました。

あと、今だと、こぼれてしまう子がいるということですね。今日も、特別支援の話もありますし、いじめ、また外国人の方とか、生活困窮とか、いろいろそういう子どもたちがいるので、我々も、今そのサポートを一生懸命していますけれども、おそらく、今以上にそういうところをサポートしながら、教育の現場の人が、いわゆる教育に集中できるようにするみたいなことが一つの解決につながっていくことなのかなということを感じました。

ありがとうございます。

次、松岡委員、お願いいたします。

#### 【松岡委員】

新しい技術で仕事がなくなるというようなお話は、新しい話でもありますし、古くからの話とも言えると思います。産業革命のときに、こんな機械を導入したら、俺たちの仕事がなくなると肉体労働者が暴動を起こしたと。

#### 【市長】

ラッドライト運動。

## 【松岡委員】

そういう時代もあるわけですので。産業革命のときには、機械を維持管理するとか、新しい機械をつくるという仕事に置きかわっていったわけですが、AIの場合は、AI自身が自分たちで維持管理を始めると、本当に仕事なくなるかもしれないけれども、それはちょっと先の話になるかなと。そのときは価値観を変えないといけないのかもしれませんがね。

やらないといけないのは、基本的には世の中は変わるもので、それに対してしなやかに自分を適切なところに当てはめて、自分の働く場を見出す、そういうしなやかさを持たないといけないということです。それと、一生勉強しないとけないということですよ。学校を出たら勉強しなくていいというのは、社会へ出て勉強しなくていいというのは、江戸時代だったらそうかもしれない。江戸時代は、新しいことをしてはいけないというおふれが出たような時代ですので、そういうときはよかったかもしれない。それ以外は一生勉強ですよ。

それと、自分としては新しい世界をつくっていかないといけないということも考えないといけませんし、ただ、それだと、今勉強していることは役に立たないのかと思う子がいたとしたら、それは間違いで、知識は知識で、今ある知識をきっちり理解して、それが基盤になるよという、それも大切なかなというふうに思います。

先生方も、タブレットが導入されて、タブレットの使い方で、タブレットを学校で使うということは大学では習っていないことなんですよ。それを一生懸命勉強しないと、先生方自身も味わっていることですし、それから、大学は大学で、日本の大学は知識伝達型で良くないという反省のもとにかなり変わってきています。PBL、プロジェクト・ベースド・ラーニング、問題解決学習、あるいはプロジェクト・ベースド・ラーニング、プロジェクトそのものも自分たちで考えて、それをどういうふう to 実現していくかという、そういうふうなことをかなりやっています、それが学生には、自分の体験としてはいい学び方かなというのが分かってきていて、私の目から見ても、随分学生の感覚が変わってきました。発言能力も随分上達しました。そういうことを学んだ学生が教員になると、自分たちの体験したことを子どもたちにも実現してくれると思うので、そういう意味では少しずつ変わっていけるのかなと思います。

それを、これまでは学校現場では、先輩先生が新米先生に教えるという、そういう感じですが、その逆もあるのかなと。若い先生に新しい教授方法を学ぶという、そういうふうなことで、学校現場も少しずつ変わっていけるのではないかなというふうに思っております。

## 【市長】

確かに、大学の教育が先に変わり始めて、その考え方に基づいて教員が増えてきて、その子たちに教わった子どもたちと新しい教員から古い教員というか、その先生たちに教えてもらってどんどん変わっていくというような、そういう方向性というようなイメージですかね。若い人から教わることが多いと思いますけど、それはできるんですかね、現場で。

## 【安藤委員】

それは、すごく。私はいっぱい教えてもらって、刺激がいっぱいで、おばさんとかができないことがいっぱいあるので、素直に教えを請えばいいと思いますね。そういう相互が。なので、たくさん人数がいた私の学校はよかったよみたいな話を以前しましたが、いろんな人がいるということはすごくいいことだと思いますね。

## 【市長】

そうですね。

## 【教育長】

ただ、どうですかね。今、働き方改革が大分言われていますが、これは、私の経験から言うと、知識注入型の授業というのはわりと効率がいいんです。ところが、これからやろうとしている主体的な部分を育む共同学習、これは、一度子どもたちをやる気にさせる必要があるわけで、要するに、こちらから刺激を与えないといけないということがありまして、相当時間がかかると思います。

しかも、今、ちょっと提案にあったように、次のところは、学習内容は、前のものは削減をせずに、上へオンしていくわけですね。そうすると授業時間がどうなのかなと。そうすると、今も働き方改革の中で、若い人から教わる時間というのと、先輩の先生というのは何らかの子どもとのかかわり方は持っているところがありますね。それをお互いに教え合うような時間が非常に厳しい状態になっているので、我々としても、大綱の中で、できるだけ先生たちが働きやすいというか、お互いに交流できるような時間と機会を保障していくことが大事かなと思います。なかなか現場では忙しいのでは。

**【安藤委員】**

総合的な学習時間とかが入ってきたときに、かなりそうやって体験的なことをしていこうとか、子どもたちに自分たちで課題を持たせて、どういうところを引っ張って行って、それを課題解決していくのかということをやってきたわけですね。先ほどの話ではないですが、前からそういうこともやっているしみたいな。視察に行ったりすると、あそこの教室も、机がみんな前を向いて教師主導ですねみたいな話になるわけですけど、結構、だから中へ入り込んで見ていくと、まだまだそういう感じなのかなというのは、思うのは思います。でも、全くもって今までずっと教師主導で、それをがらっと変えていくというわけではないと思うので、先生方の中にも、そうして体験的に学ぶとか、子どもたちが意見を出し合って学んでいくということは大事だということは良く分かっていると思うので。

とともに、またそれはそっちへ行ってしまうと良くないのかなって。学ぶべきこととか、教えるというかな、きちっとした、培ってきた知識とか、技能とかいうことはあるので、特に小さいうちには、それもきちっとし、そして、それをもとに考えさせてとか、交流させてとか。むやみやたらに子どもたちにあれしてしまうと、時間ばかりたつてとかいうこともあるので、良い加減でやっていけるといいなというふうには思いますね。

**【市長】**

ベースをどのタイミングまでつくって、そこから発展というんですかね、それを活用していくみたいなのがどこかにあるみたいなことなのでしょうか。おそらく学習指導要領も、もとあるものにオンするということは、そういう発想ですね。知識は大事であるよと、ただ、その活用の仕方も大事だよということで。子どもたちにすごく期待し過ぎているのと違うのか、ということなのかもしれませんけれども。とはいえ、多分、OECDとかのことは見ていると、それを全部使いこなせる子どもを育てようということになっているということなのかな。世界的にもそういう方向性でしょうか、そういう意味ではね。

**【教育長】**

ただ、稲垣委員がおっしゃっていただいたように、どれもこれもと期待し過ぎると、子どもたちも先生たちも潰れてしまうので、だから桑名としてどのような子を育てるということをしっかり考えていかなければいけないのと、言われたように、当たり前を見直すということですかね。私がちょっと思うのは、最近の学校現場は、「みんな違って、みんないいよ。」と以前からずっと言っているわけです。でも、やはり違うと笑われたり、間違ふことに対して、すごく今の子どもたちが恐怖心みたいなものを持っているような気がしますので、それを解いてやってほしいというのがすごく感じる場所ですけどね。

**【市長】**

それは同調圧力ですかね、そういうものがあるということでしょうか。

**【教育長】**

例えば、計算して答えを出すわけですね。そうすると、みんながいいですか言うのです。いいですがもらえないとしゅんとなっちゃうわけですね。

**【安藤委員】**

でも、それは昔からあって、私たちでも一緒だと思いますが、自分だけ浮いていないかなとかというのはすごく気になるし、子どももそうだと思うし、それから、社会的にちょっと違うことをやると炎上するみたいな……。

【市長】

そうですね、世の中の雰囲気ね。

【安藤委員】

みんなが監視している、監視されているみたいな感じがあって、責めるほうは無責任に責めるみたいな感じがありますよね。だから、子どもたちのつき合いの中にもそういう影が落ちているのではないかなとは思いますがね。

【稲垣委員】

大綱にもつながってくるかもしれませんが、多分、桑名として、1歳児からが本当はいいと思いますが、それこそ義務教育15歳まで、どういう段階で子どもが育っていくのかというシミュレーションするような、そういうものがあつたらいいのではないかと。だから、今のアクティブラーニングも、中学校3年生でアクティブラーニングするぐらいだったら一斉授業でもいいわけですよね、例えば受験の前とか、分からないですけど。そのときそのときにどういう力をつけてほしいのか、そのためにどういう授業が必要で、どういう技能が先生に必要なのかみたいな、そういうのが。どこかで私は見たような気がしますが、多分そういうのもあると、より明確になるのかなと、今お話を聞いて思いました。

【市長】

英語教育は、小中の9年プランをつくっていただいて、一気に通貫といいますか、しっかりそこで15歳のときに英語で桑名の自慢ができる子どもを育てようみたいな、非常に分かりやすい目標を持っていただいているので、全体にもそういうのができるといいのではないかとということかもしれないですね。

【稲垣委員】

そうですね。それぞれ、本当に持てると。多分、先生たちもすごく頑張っていらっしゃるけれども、みんな一人屋台みたいな。うまくいっている先生の情報はもっと共有すればいいのにとこのをすごく思います。多分そうやってはっきり分かっていると共有できたりとか、教材も使い回しができるようになると、少し先生の手間も省けたりとか、そういうのを教育委員会でバックアップできるのではということちょっと思いますけどね。

【松岡委員】

学習指導要領って、10年ごとに振動しているんですよね。ゆとり教育か、知識。

【教育長】

振っていますね。

【松岡委員】

ゆとり教育は、本当はよかったんですね。あれが、今風に言えばアクティブラーニング。

【市長】

まさにそうですね。

【松岡委員】

それが、学校現場が分かってきたところで変わって、またあたふたして、その繰り返しをやっているようなところがあるので。どちらも大事ですね。

【市長】

そこに、ある意味、あたふたせずに、桑名としての教育をつくっていくみたいなことと、僕も、観点が違うかもしれないですけど、いわゆる世で成功した、例えばスティーブ・ジョブズとか、イーロン・マスクみたいな、ああいう方たちは、学校の授業をおそらくきちんと受けなかった人たちだと思っています。立ち歩いていたり、そもそも学校に行っていないとか、多分そういう人たちだったんだと思います。それこそ今までの教育だと、立ち歩いて困った子だみたいな逆の価値観が出てきていて、そういう子たちだからこそ新しい発想ができるみたいなところをいかにうまく、教育のベースの部分と、そういう子たちもしっかりと価値あるように育てると言えますか、そういうところが必要になってくるのかなと思いましたがね。インクルーシブというか、そういう形ができてくるといいのかなと。

多分、そこが日本は徹底的に欠けているというか、その子たちは変わった子だからきちんとしようみたいな、そういうのがあると思いますが、そういう子たちはそういう子たちで新しい何かを生み出す、経済でいけば、すごく新しい産業も生み出した人たちもいるはずなので、そういう子をいかに育てるのかみたいなのが要るのかもしれないですね。ユニコーン企業がなかなか出てこないのはそういうところもあるかもしれない。

**【松岡委員】**

それについては、内閣府が知財創造教育コンソーシアムというのを立ち上げていて、ちょっと私もかかわっていますが、それで、出るくいを伸ばすような仕組みを地域で、企業でとか、そのあたりも絡めてできないかという検討をし始めていますね。

**【市長】**

そうですね。そういうのが、おそらく今だと、手がかかる子と。例えば日本語が話せない外国籍の子たちも、将来的には、その国と日本のかけ橋になるような強い子になる可能性もあったりとか、そういういろんな子の可能性を伸ばしていけるような、引き上げできるようなものができていくといいなということもちょっと思いましたね。

あまり話していても、時間的にどうですか。

**【教育監兼学校支援課長】**

そうですね。

**【市長】**

議論が尽きませんが、では、ありがとうございます。

それでは、今までは大きなテーマで議論いただいたわけですが、続いて、本市教育の課題の整理をさせていただきたいと思います。

事務局から、現行の教育大綱を踏まえ、教育大綱（案）についてご説明をお願いいたします。

**【学校支援課主幹】**

学校支援課主幹の尾関と申します。よろしく申し上げます。

お手元にございます桑名市教育大綱の案をご覧くださいと思います。

桑名市教育大綱の案については、現行のものから幾つか変更点がございまして、簡単ではございますが、ご説明をさせていただきたいと思います。

まず、表紙をめくっていただきまして、目次とありますけれども、こちらに章立てとしまして、5つの章で編成をすることとさせていただきます。

1 ページの1、策定の趣旨につきましては、国の教育振興基本計画が、今年度新しくなり、第3期の計画が発表されておりますので、現行では第2期ということになっておりましたが、第3期という形で変更し、それを斟酌する形とさせていただきたいというふうに思っております。

2 ページの2、基本理念につきましては、今ご議論もありましたけれども、今後、5年間も、現行の「夢を持ち その夢に向かって努力する子を育てます」というこの理念、今後も通用するのではないかとということで、原案では、変更は現行からしておりません。また、ここのあたりについても議論をさせていただきたいと思っております。

3の期間につきましては、先ほどもありましたけれども、教育大綱後期2020年から2024年の5年分とさせていただきます。

4 ページにつきましては、桑名市総合計画の基本理念のページを持ってきているというページでございまして、ここにつきましても、本年度から来年度にかけて、総合計画のほうも改定が始まりますので、そこに合わせた形でページをつくらせていただこうかなと思っております。ここについては、現在のものを抜粋という形で載せさせていただきます。

5 ページからは、しばらく本市の教育の現状と課題ということでまとめさせていただきます。学校教育の基本になります、知、徳、体の項目を、最初の5ページ、(1)から(3)まで3項目記述させていただきます、全部で8項目という形で構成をさせていただきます。この中では、現行の教育

大綱にないものとしまして、例えば5ページの確かな学力の定着と向上として、小中学校において、活動力とか、学びに向かう力などを身につけていくために授業改善が必要であると考えていること。

そして、8ページには、教育環境の整備としまして、多様化する子どもや保護者の方々の悩みや問題に対応するための教育相談体制の充実であるとか、先ほどもありましたICT機器を活用した効果的な授業展開を創造していくなどの文言がつけ加わっております。

9ページでは、コミュニティ・スクールを核としました地域とともにある学校づくりということがこれからますます重要になるのではないかとということで、その必要性について言及させていただいております。

11ページからの基本方針につきましては、今お話しさせていただいた現状と課題の課題部分を解決していくための施策として実施していくための指針でありますので、双方がつながる、リンクする形でお示しをさせていただき、現行は基本方針が7つになっておりますけれども、現状と課題の合わせて8つの基本方針とさせていただいているのが特徴となります。

本日は、特に2ページの基本理念の部分をご議論いただければなというふうに考えておりますが、4ページぐらいまでを議論していただき、5ページ以降の教育の現状と課題につきましては、次回もあるという予定でございますので、以降、引き続きご議論いただければなというふうに考えております。

事務局からは以上です。どうぞよろしく申し上げます。

#### 【市長】

ありがとうございます。

この大綱の中の趣旨、基本理念、期間、総合計画とありますけど、特にこの基本理念をメインにさまざまご意見を頂戴できればというふうに思っております。

というわけで、では、またこちら回りで。

#### 【教育長】

では、私のほうから。

基本理念は、私もちょっと思っていたのですが、ずっと後のページになっていましたので、始めに持ってきていただいてよかったなというふうに思っています。「夢を持ち、その夢に向かって努力する子を育てる」ということについては、これはかなり不易な部分かなというふうに思っております、私も現場を離れてあれですけども、子どもたちが何のために勉強しているのかとか、それから世の中のために役に立ちたいとかいうことをしっかりと認識しだすと、ものすごく意欲が湧いてきた子どもたちを目にしたことがよくありますので、毎日を短絡的に過ごすというか、それよりも、自分がどんな人間になりたいとか、当然、どんな職業につきたいというのがあるかもしれないけれども、そのために自分はどのようにしていくんだと。

当然、その中では、簡単に言うと、お金持ちになりたいとか、幸せな生活をしたいという、自分の享受のこともありますが、それとともに、世の中のために役に立ちたいということが両輪としてあると思っておりますので、そのあたりをしっかりと根底に添えて、夢を持ち、その夢に向かって努力する子というのは、非常にいい理念だなというふうに改めて感じております。

それと、その中で、言うなれば、桑名の子が全て夢を持ってもらうとなると、やはり今よく言われています、かなり子どもの貧困というあたりも頭に浮かんできますので、そのあたりも視野に入れて、このテーマをやっていけるといいのではないかなと。

それともう一つ、貧困対策として、お金を何とかすればという話が今までよく言われてきたんですけども、それも一つ政策としては大事かと思っておりますけれども、抜本的なくさびを刺していくには、ある程度お金がなくてもできることは何なのかということの中で、今、非認知的能力とも言われていたけれども、保護者の接し方とか、もうちょっと小さいときからの一貫した子育てのあり方みたいなのをしっかり頭に入れて、ここの理念をもう一度見てみると非常にいいのではないかなと、そのような思いを持っております。

#### 【市長】

理念を立てて、以前につくらせていただいて、流行に流されないような理念だということで、このままいこうということだと思います。全ての子どもに夢を持たせるということに基づいて教育大綱をつくりつつ、そこから、それこそ総合計画のほうに波及させるといいますか、教育に入る前からしっかりとできたらいいのではないかなというように、今感じました。

あと、何のために勉強するのかみたいな、世の中のために勉強しようみたいなのを、確かに前の教育長の伊藤教育長も、世のために頑張るんだと、自分のためではないぞということはずごく大事だということを今思い出しましたが、そういうことがしっかり伝わるような教育環境になるといいなと思いますね。

ありがとうございます。

では、稲垣委員、お願いします。

#### 【稲垣委員】

まず、この基本理念は、とてもすんと入っていいのではないかなと思います。ただ、さっきも同じことですが、では、本当にこの理念が実現できるような、今日は話さないということですが、要は、5ページ以降の施策が実現できたら、本当に夢に向かって努力する子が育っているのかという、そういう施策になっているのか。個人的には、この施策に一個も夢という文字がないのもちょっと気になりました。実は、夢という文字が一個もないですね。本当にこれと施策がつながっているものになっているか。本当にこれを育てたいって、やはり私たちの本気度が試されるのではないかなと。

個人的には、桑名って、例えば大嶋啓介さんがいたりとか、夢を描いてくれる人が結構いると思っています。ただ、夢って、ポジティブだけではない。では、本当に夢が実現できることは何が必要かと思うと、ただポジティブに生きるだけではなく、さっき教育長が言ってくださったように、読解力、国語力が必要になってくると思いますし、多分、本当に夢を持てる子の要素って何だろうというのを、私たちはアンケートをとっているのかとか、今、桑名の子が何人夢を持っていますかって、そういう現状を知っているのかとか、私たち大人も、夢に向かって努力する子を育てるにはどうしたらいいだろうというのを話す時間をもっといっぱい持てたらいいのではないかなというふうに今回一つ提案したいなと思いましたね。

この今、大人はどれだけ夢を持っていますかって聞きたい感じですよ。フェアであってほしいですよ。持っていますかって、ほとんど挙がらないと思います。そんな人が子どもに、あんた、夢を持ちなさいって、子どもはいい迷惑ですよなと思っているのが一つと、それと、どうしても三重県桑名市というポジションで、私たちは、三重県とか、近隣の市町を見ますが、そういうことはやめましょうというのをぜひ提案したいですね。

要は、よその市町、よその県はどうでもいいと。桑名市がどうしたいのかというのがクローズアップされるし、文科省とかも、うまくいった成功例をいっぱい載せていますよね。私も言うておきました。「桑名市がやったら載せてくれますか。」と言ったら、「載せます。」と。「冊子にしてくれますか。」と、「冊子にします。」と言っていたので、そういう子を、桑名市の本当にオリジナルを、夢に向かって努力する子を育てるといいうのを本気で考えるといいかなと思いました。

#### 【市長】

言いつらいことをさらりとおっしゃっていただきました。おっしゃるとおりで、理念と施策にギャップはおそらくあるのだと思います。これをいかに埋めるのかといいますかね、これは非常に大事なことかなというふうに思いましたし、ただ、ポジティブに思う、そしてそこに向けて努力するのは非常に泥くさいことだし、そこには一定の知識だったり、読解力、そういうものも必要だろうなと、そんなことを思いながら、ポジティブに思える子が育てられる社会なのかどうかということですね。我々自身も、しっかり夢を持って、どんな社会にしたいということを言えるような雰囲気になってくるといいのかなということが一つかなと思いました。

もう一つ、ほかの場所の比較はしがちな分野、行政はそういう分野なので、ここはちょっと考えていかなくはいけないなと思いましたが、実際、桑名市の総合計画のビジョンとしては、本物力こそ、桑

名力と言っているので、桑名にある本物をどんどん磨いていくということが桑名の力につながるということなので、まさに他市と比較せず、より桑名らしいまちを目指すということになっているので、そういうところにうまくつながっていくと、桑名らしい教育とは何かみたいなことをここで追求できていくといいのかもしれないですね。夢、そうですね、この理念は確かにすんと落ちるということなので、これとその施策がうまくつながるように。

#### 【稲垣委員】

そうですね。そういう意味では、コミュニティ・スクールとか、そういうのがすごく肝になってくるのだろうなという感じがしました。施策が決して悪いわけではない、ちなみに。本当にこれはやらなければいけないということで、本当に大事な要素ですけど。

#### 【市長】

全部夢と書いたらいいのではないですか。夢、英語教育とか。でも、誰か、これを知って、何なんですかと言われたときに、例えば夢を持ってこうやるべきではないかみたいなことが言えるようにというような説明の仕方とかもあるのかなと思いましたけれどもね。そうですね、コミュニティ・スクールだって、周りの大人が夢を持っていなかったら、大人ってこんなのかなんかみたいな、むしろがっかりするみたいなのは良くないと思いますので、ここはしっかり受けとめて、こちらは次回以降議論していくということなので、そういう部分でいろいろご議論いただければなと思っております。

では、安藤委員、お願いいたします。

#### 【安藤委員】

私も、基本理念が大事だなと思って、基本理念がどのように基本方針に反映されているのかなってちらちらしながら見ていました。夢を持ちという、夢を描けるためには、12ページの視点2とか、視点3とかが大事だから読んでいました。視点2の、子どもたちが生き生きと生活できるように支援しますって、すごく大事だと思います。その言葉と基本方針はちょっと違う感じがするので、またここは後ほどということだと思っていますが、夢を持つためには生き生きと生活できないと夢は持てないだろうな。それから、視点3の、そういう郷土に誇りを持って、生涯にわたって学び続けている大人がいない。いいモデルがないと夢は描けないだろうなというふうに思いました。だから、そんな感じでさらに突き詰めて考えていくといいのかな。

夢に向かって努力するためには、視点1の、生きる力の育成というか、努力していただくだけのやる気とか、本気とかが備わっていないと良くないですし、生活のゆとりがないと努力もできないし、仲間とか、応援してくれる大人がいないと努力できないしというふうには思いました。だから、そんなふうにつなげて考えていきたいなというふうには思います。

そもそも夢を持ちってどういうことなのかなというのは、今、教育長とか、稲垣さんとか、いろいろとお話をしていただいたので、そうだなというふうには思いましたが、小さい就学前の子から小学校、中学校。中学校、高校へ行くと、自分の人生みたいな、夢を持ちみたいなこともはっきりしてきますが、小さい子が夢を持ちって、ドラえもんになりたいとか、それもすごく大事だと思って、要するに前向きに生きていけるというか、生活力があるというか、そういうことなのかなって思ってみたり。

それに向かって努力するって、小さい子はどういうことみたいなことは思って、いわゆる生き生きと生活していく、しっかり遊んで、しっかり食べて、しっかり寝てということをやっていけば土台になっていくのかなというふうに分なりに思っていました。その辺をみんなが共通理解というか、話し込んで、どういうことなんだということを理解していないと、理念って良くないよなというふうには思いました。

#### 【市長】

理念だけ浮いていても良くないよねって。それが、教育のレベルのみならず、いろんなところに落とし込まれていくみたいなことをまち全体で取り組んでいくというようなことなのかなと思いますね。うちの子どもとかも、今、孫悟空になりたいくて、『ドラゴンボール』が大好きで、悟空になりたいくて、すごく筋トレしているんですよ、5歳ですけど。

【安藤委員】

努力していますね。すばらしい。

【市長】

腹を殴ってくれとかって、殴ると痛いとかで泣いたりとか、やっているですけども、すごく努力しているのは、頑張っているなど見ているんですけど。

【安藤委員】

前向きですね。

【市長】

生き生きしているなど思いますけどね。それが、そうできない家庭環境の子たちもいるので、ここをいかに福祉の分野とつないで本当にありとあらゆる子たちが夢を持てるようにすると。夢に向かって努力する子というのは、おそらくこの教育現場の部分でうまく取り組んでいけるとすると、最初の部分もしっかりしなくてはいけないのかなというふうに感じました。ありがとうございます。

では、続きまして、松岡委員、お願いいたします。

【松岡委員】

最初のこの大きな夢を持ちという文章ですけど、私はとても好きです。夢という言葉については、私は、難しい、できるかできないか分からないような夢を、課題が与えられると燃えるほうなんですね。もともと工学部出身でエンジニアですから、エンジニアというのは、難しい課題を与えられるほど燃える。どうしたらそういうことができるのかと考えるほうですけども、人によっては、夢というのは、こうしたらいいな、こうだったらいいなと思うけど、それはできないものというふうに考える人もいます。どうしてかなと思います、子どもについていうと、自分に自信があるかどうかは違ってくるのかなと思っています。

私の職場でも、自己点検評価というのをやるようになりましたけれども、最初は控え目にやっていたんですけど、ある先生が、全部できる、できる、頑張っているとするようにしたと。何でもかといったら、そうしたほうが精神衛生上いいというのと、それから、大体できているけど、この部分はできていないというふうな、そういうふうなポジティブな考え方をすると、それもやらなければいけないということで気持ち良く自分を進められる、そういうことで、以降、私もなるべくいいように評価するようになったんですけどもね。

学校現場でいうと、テストの成績だけでいうと、子どもたちで自信を持っているのは上位1割ぐらいですよ。ということは、9割の自信のない子を生み出している場ということにもなってしまうですね。OECDでしたかね、日本の子どもたちは、際立って自分に自信のない割合が多いということだったんですけど、まずは自信を持たせることかなと思います。できるできると。実現不可能そうな夢を持ったとしても、それを頑張ってやる。それこそ今おっしゃったように、頑張って。あるときからちょっと考え方は変わる。

【市長】

おそらく変わるでしょうね。

【松岡委員】

でも、悟空ではないにしても、変わる何かを見つけ出すということなんですね。まずは、自信を持たせる割合を増やすような教育を考えなければいけないのかなと思いました。

【市長】

確かに、日本の子どもたちは自信がないっていろんなところで言われていますけれども、テストばかりだとおそらく自信がなくなるんですね、今の話ですと。そうじゃないところで、いかにそれぞれの自信が持てるような部分を伸ばしていくのかということにつながっていくのかなと思います。今日は、夢とか、自信とか、ポジティブな言葉がたくさん出てきて、大変おもしろい議論ができているなどと思っています。

ほかに何か、いろいろまだ言い忘れた、言い足りないという方がおられましたら。

【教育長】

言い忘れているんですけど、今、松岡委員のお話を聞いていまして、子どもたちは学校でも家でも、あまり褒められないのかなというのは、特に家でもかもしれませんが、大体何かやると、お叱りを受けることばかりで、学校でも、多分、掃除をしないと、給食を全部食べないとかいう形で、一日中叱られっ放しなので、だから、やはり自信というのが湧きにくいのかな。

この間、「まんぷく」を見ていたら、あれは福子さんか、変な話で申しわけないけど、萬平さんに対して、「萬平さんならできますよね、できますよね。」って、ああやっていつもうちの女房が言ってくれたら、僕も、というような思いも持ちましたので、君にはできるよねという声かけって、あまり学校でしないなというような感じを今持ちました。松岡委員のお言葉を聞いて、もう少しその部分で考えていかなければいけないかなと思いましたので。

#### 【市長】

子どもたちが、例えばいろんなスポーツをやっている、すごく優秀な成績をとられて、市長表敬訪問に来たり、教育長表敬訪問に来て、すごい子がたくさんいるなと思って、「学校で表彰されるの。」と言ったら、「学校ではないです。」とか、「時間がないから。」とか、全校集会が減っているのですか、僕も良く分かりませんが、なかなか。「友達は知らない。」と、こういうことをやっているというのを、そういう子が結構いたりするので、うまく頑張っているところを褒めるというか、みんなで賞賛するみたいな、そういう文化が出てくるといいですよ。

話は全然違いますが、僕、実は、落選しているときに、外資系の保険会社に勤めていまして、外資系の保険会社って、完全歩合制という、すごくストレスフルなところですけど、でも、それを見せないがために、拍手と握手という分野があって、何か契約をとってくると、おめでとうと言って全員握手するみたいなことを、一応、企業の文化としてつくっていたんですね。賞賛されるとめちゃうれしいので、また頑張ろうみたいな感じは結構分かりやすく、パブロフの犬みたいになったりするわけですけど、褒められるとか、おめでとうと言われるという場所をつくっていくというのは、シンプルに朝の会とかでやるとかができるかもしれないですね。

#### 【稲垣委員】

それも、できる子は褒めることができますよね。問題は、褒められない子をどうするかと。多分、そういう子たちが光を浴びず、自尊心が下がるというところに行くと思います。体育で褒められる子と数学で褒められる子と掃除で褒められる子って、いろいろありますよね。そういう意味で、多分、本当に褒めるといって、光が当たる場所をいっぱいつくればいいのかと思いますし。小学校は結構いけると思います、それで。多分、問題は中学のような気がしていて、中学って、授業と部活で、私も、今、子どもが中学へ行っているからあれですけど、部活でやめた子のことをみんな陰キャと言うんですよ。

#### 【市長】

陰キャ。

#### 【稲垣委員】

陰キャです。今、陽キャと陰キャという言い方ですよ。性格とかではなく、ただそうやってドロップアウトしてしまった時点で陰キャみたいな、ついちゃったりするわけですよ。そうすると、その子に光が当たらないとなると、夢なんて多分とても持てない、そうでなくても部活を挫折しているわけですから。でも、これが例えば、コミュニティ・スクールとかができて、もうちょっといろんな外部の人とかが入ると、例えばバスケット部ではだめだったけれども、実は大好きな物理が好きな近所のおじさんがいてとか、そういうのがあったり、書道がどうか、そうやってその子たちの活躍の場がいっぱいあるような社会があるといいのではないかなとは思いますがね。

#### 【市長】

学校だと、閉じられているというか、分野が広くないでしょうけれども、そういう光を当てられる大人たちが近くにいることで、救われる子たちが出てくるのではないかなということですよ。

#### 【稲垣委員】

そうですね。多分、働き方改革として、ある程度先生もその辺が手放せる機会も出てくるでしょう

し。

【市長】

ありがとうございます。

安藤委員、何かありませんか。

【安藤委員】

褒めるの話で、大きくなってくると、褒めるのも難しいですね。本人が納得していないことでわざとらしく褒めても、周りも引くしみたい。だから、変にみんなでわっと言うのもなかなか難しいなって。小さい子ほどにかく褒めておけば。小学校でも、「どんなにわちゃわちゃしている子でも、褒めることをつってやりな。」と言って。「今度、先生がぐるっと回って、あなたのところへ来るまで前を向いていてね。」と約束して、きちんと前を向いていたら、「すごいな、あなた、前を向いていたやん。」みたいなことで褒めてあげたらいいので、何でも褒められるよというふうには言いますが、大きくなってくると、なかなかそこは。

【稲垣委員】

そうですね。うちの子、俺のことを褒めるなど言いますから。構うなということですよ。

【安藤委員】

褒められるというよりは、自分で満足できるというか、やったってひそかに思うみたいなことをうまくお膳立てしていくというところですよ。

【市長】

自分でどれだけガッツポーズできるかみたいなことでしょうね。

【教育長】

中学生でも褒められるとうれしい。我々でも、ちょっと言われてもそうですけれども、中学生も本当にそうみたいで、中学校の先生に聞いたときに、担任は国語の先生なんですよ。ところが英語のときに、すごくいつも違って活躍したと。そのことを、メモをお互い渡して、担任が、英語のときに頑張ったなというのをちらっと言うと、ものすごくそれは次のエネルギーになったということ。お互いに先生が連携し合いながら観察するというか、それが非常に中学生あたりだと大事になるかなと思いますよ。

【市長】

やる気のスイッチがそこで入ったりするわけですね、それがうまくつながっていくことでね。

【教育長】

3人ぐらいから頑張ったねと言われると、すごく真実味が。

【市長】

みんなから言われたみたいな感じがあって。そういうのも先生たちにぜひうまく取り組んでいただいでいけたらいいのかなと思います。

というわけで、皆さんからご意見をいただきましてありがとうございます。これで今日の事項は終わりになりますけれども、事務局から連絡事項など、何かありますか。

【総務課長】

ご議論、ありがとうございます。

次回、引き続き、教育大綱につきましてのご議論をいただきたいと思います。例年ですと、8月ぐらいに開催していましたが、今回、策定作業がございますので、今現在、5月ごろに開催をお願いしたいと思っております。日程等につきましては、また改めて調整をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

【市長】

それでは、これで本日の事項は全て終わりにになりました。これを持ちまして、平成30年度第2回桑名市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

— 了 —